

本番さながら

防災訓練

防災の日の九月一日、町内の各学校や事業所では、「いざ」という時に備えて、模擬の防災訓練が行われました。

ここ、南条小学校では九月二日午前九時、想定地震マグニチュード6の巨大地震が発生したとの放送で、子どもたちは机の下にもぐり地震の治まるのをじっと待っていました。

次の放送で地震により校舎の一部にきれつが入ったので、第一避難場所(校舎前正門)に集まるよう放送されると、一・二階の子どもは防災頭巾をかぶり、ハンカチを口に当てて、先生の



避難場所まで、さあいそいで…

誘導で避難しました。又、六年生は三階から救助袋を使って脱出しました。

児童はクラスごとに点呼をとって校長先生に報告、無事子どもたちは全員避難、その後、先生がたによる放水が行われ訓練は終了しました。

各家庭においても普段から防災について話し合いや防災点検に心掛けましょう。



救助袋を使い、青ざめた表情で脱出

カーブミラーの清掃で 安全運転よびかける

交通安全協会

九月二十一日から三十日まで十日間、全国秋の交通安全運動が展開されました。この期間中、交通安全協会の指導員は街頭で通行者の指導に当たったり、カーブミラーの清掃を行ったりして、安全運転を呼びかけました。

心こめて磨きあげられたミラーは「ドライバターの皆さん、スピードは控え目に」と運転する人に訴えているかのようです。歩行者の皆さんは、横断歩道を正しいルールで渡りましょう。



カーブミラーを磨く指導員(白浜小前)

青少年の

豊かな心を育てよう

「自己中心のわがまま、そのうえ甘えた考えを持っている」——最近の子供たちについて、こうした傾向を指摘する人が多いうです。そして、現代っ子たちに欠けているのが**他人を思いやる心**だといわれています。子供たちが、日常の生活を通して「**豊かな心**」をはぐくみ、

社会の一員として「他人を思いやる心」を身につけるためには、学校、家庭、社会が連携を取りつつ、それぞれの教育的役割を果たすことが大切です。そして、ふだんから美しいものを素直に美しいと感じ、弱いものに対するいたわりの気持ちを抱かせながら、他人を思いやる心を芽生

えさせ、育てていくことが大切です。と同時に、**物を大切に**する心を育てることも大切です。物を粗末にしない心が、ひいては他人に対する思いやりにつながります。また、必要もないのに、子供が欲しがらるものを買いたいものではないように気をつけ